

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
平成29年度 分担研究報告書

新規ウイルス肝炎患者拾い上げとその追跡調査システムの構築 に関する研究

研究分担者：松本 晶博 信州大学医学附属病院 肝疾患診療相談センター教授

研究要旨：当病院における新規のウイルス肝炎患者の拾い上げとその後に適切な医療がなされているかどうかをカルテシステムを利用して実態調査を行い、将来的に主治医へその結果を連絡するアラートシステムの構築を目指す。

A. 研究目的

当院における新規ウイルス肝炎患者数の把握とその後の専門科への受信状況を調査する。

上記の結果を用いて、主治医に連絡するアラートシステムの構築を目指す。

B. 研究方法

対象者：当院へ受診し、HBs 抗原および HCV 抗体を測定した患者を全て拾い上げる。上記の患者の受診歴より、肝炎治療専門科への受診がない例を抽出する。

上記症例について経過を追い、肝炎治療専門科への受診がなされたかどうか追跡調査を行う。追跡調査を元に、肝炎治療専門医療機関への未受信者と思われる症例について、主治医にカルテシステムを用いて未受信の有無を確認するよう連絡のみ行う。

（倫理的配慮）

当院のカルテシステムを利用し、データ操作はカルテシステムの中で行う。

C. 研究結果

2016年に当院を受診し、ウイルスマーカーを測定した8513例（男：女 4103:4410 例）のうち、HCV抗体のみ陽性は男性

1.7%、女性1.8%。HBV抗原のみ陽性は男性0.6%、女性0.4%HBs抗体またはHBc抗体のみ陽性は男性2.2%、女性2.0%であった。HBs抗原陽性者は各年齢でほぼ均一に分布していたが、HCV抗原陽性者およびHBs 抗体またはHBc抗体のみ陽性者は70代をピークに分布していた。各診療科別に測定後の経過を調べたところ、消化器内科への紹介が少なかったのは眼科(88%)、救命センター(79%)、循環器内科(85%)であった。

D. 考察

2016年の時点では、HCV抗体やHBVマーカーが陽性でも消化器内科へ紹介されない症例が多かった。また、特定の診療科で紹介率が低いことがわかった。

E. 結論

2016年時点ではウイルス肝炎マーカー陽性者の院内紹介率が低いことが示された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし